

# 第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	
-------	----	------	---	-------	--

【継続】の場合の区分 継続

部等名	課等名	班等名
教育委員会	生涯学習課	社会教育班

事業(予算)名	生涯学習事業							
総合計画体系	施策の大綱		第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさや愛を育むまち					
	施策		施策1 地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興					
	施策の展開		(1) 生涯学習活動の促進					
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	1
関連計画・根拠法令等	社会教育法 富里市教育推進基本計画 とみさと教育プラン							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	不明							

事業の概要	現状(課題・ニーズ)	平成28年度から実施している「ふるさと富里再発見」については、岩崎久彌氏について学習機会のみならず、農業、国重要文化財、環境、自然体験など多岐にわたり学習することができ、児童にとってかけがえのない事業となっている。平成29年度から実施している「とみっこ大学」は応募状況も好評である。						
	対象(誰・何を)	市民						
	事業内容(課題・ニーズの解決策)	生涯学習の機会の提供の場として、児童を対象とした旧岩崎家末廣別邸、末廣農場、岩崎久彌氏について学習する「ふるさと富里再発見」、ものづくり・環境学習の体験活動を中心に学習「とみっこ大学」、英語ふれあいDays等の事業をさらに充実させるとともに、生涯学習・家庭教育講演会、20歳以上の市民を対象にした創年セミナーを実施する。拡充するものについては、参加者負担金を充当するなどして対応していく。						
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input checked="" type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用 ( )						
	事業手法選択の理由	平成30年度より、参加者負担金を市歳入会計にしたことにより、歳出について委託という手法を選択した。また、事業によっては、講座などの講師を市民や団体などに依頼し、地域連携、協働を目指しているため。						
	協働の取組	有	協働の取組内容		「とみっこ大学」の講師については、市民、公民館で活動しているサークル・団体、民間企業を活用している。			

指標	単位	目標値			指標として設定する理由
		H30年度	R元年度	R2年度	
ふるさと富里再発見	%	100	100	100	質問項目により、改善すべき点も把握できるため。
とみっこ大学参加児童の満足度	%	80	85	90	質問項目により、改善すべき点も把握できるため。
創年セミナー開催数	回	16	16	16	生涯学習の機会の提供のため
後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
公民館利用者数	人	55,973	65,000	生涯学習の場を提供	
総合戦略における指標等	単位	基準値(年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
「英語ふれあいDay」関連行事参加者の満足度	%	93 (H26)	95 (H31)	KPI	前年度のアンケート結果等を踏まえて、改善すべき点は善処する。
		( )			
		( )			

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
生涯学習事業	教育委員会	生涯学習課	社会教育班

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
ふるさと富里再発見	%	100	100	100	64	100	
とみっこ大学参加児童の満足度	%	80	89	85	89	90	
創年セミナー開催数	回	16	16	16	15	16	

評価	平成30年度	事業効果	非常に効果的であった
		判断理由	目標値を達成することができた。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	生涯学習の機会を提供していきたい。
	令和元年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	目標値は上回らなかったが、概ね目標値を達成している。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	生涯学習の機会を提供していきたい。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

## 第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	
-------	----	------	---	-------	--

➔ 【継続】の場合の区分 継続

部等名	課等名	班等名
教育委員会	生涯学習課	社会教育班

事業(予算)名	公民館管理事業							
総合計画体系	施策の大綱		第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち					
	施策		施策1 地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興					
	施策の展開		(2) 子育て支援の充実					
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	2
関連計画・根拠法令等	社会教育法 富里市教育振興計画 とみさと教育プラン 富里市教育施設等総合管理計画							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	不明							

事業の概要	現状 (課題・ニーズ)	市民の社会教育の中核的な施設として中央公民館の役割が重要となっているが、その施設・設備の老朽化が著しく、機能の回復や向上が必要となる箇所が多くなっている。今後は、中長期視点に立った老朽化、将来の利用需要も踏まえ、市民が安心して学び・集う場所としての利便性の向上や安全確保に努める必要がある。						
	対象 (誰・何を)	利用者(市民)						
	事業内容 (課題・ニーズの解決策)	中央公民館の長寿命化計画(個別)を作成し、長寿命化の実施を検討するとともに、施設利用者の多様なニーズに応える。また、夜間・土日の管理業務をシルバー人材センターへ委託し職員の負担軽減と利用者へのサービスを務める。						
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用 ( )						
	事業手法 選択の理由	保守点検により指摘を受けた場所の早期修繕を行う。施設の長寿命化を図るため公共施設長寿命化計画の策定を検討する。また、夜間・土日の管理業務を引き続きシルバー人材センターに依頼し職員の負担軽減と利用者へのサービスを図る。						
	協働の取組	無	協働の取組内容					


指標	指標	単位	目標値			指標として設定する理由
			H30年度	R元年度	R2年度	
	公民館利用者数	人	56,000	57,000	58,000	生涯学習の拠点として利活用の目安となる。
	後期基本計画 における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
	公民館利用者数	人	64,426	65,000	生涯学習の拠点としての利活用の目安となる	
	総合戦略におけ る指標等	単位	基準値 (年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
		( )				
		( )				
		( )				

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
公民館管理事業	教育委員会	生涯学習課	社会教育班

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
公民館利用者数	人	56,000	52,756	57,000	51,913	58,000	

評価	平成30年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	目標値は上回らなかったが、概ね目標値を達成している。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	施設の老朽化により補修箇所が増えている。 利用者の安全確保及び利用団体が快適に利用できるよう社会教育活動の場として、引き続き支援を行う。
	令和元年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	目標値は上回らなかったが、概ね目標値を達成している。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	施設の老朽化により補修箇所が増えている。 利用者の安全確保及び利用団体が快適に利用できるよう社会教育活動の場として引き続き支援を行う。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	○	事業コード	
				【継続】の場合の区分	継続
部等名		課等名		班等名	
教育委員会		生涯学習課		文化資源活用室	

事業(予算)名	文化財事業							
総合計画体系	施策の大綱		第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち					
	施策		施策1 地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興					
	施策の展開		(5) 文化財の保護・活用					
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	1
関連計画・根拠法令等	文化財保護法							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		

事業の概要	現状(課題・ニーズ)	国民共有の財産である文化財は、適切な保存はもとより、一般公開するなどの活用が求められている。その様な中で、長期的な保護体制及び明確なビジョンの提示が必要である。						
	対象(誰・何を)	市内に所在する全ての文化財(指定・未指定の区別なし)						
	事業内容(課題・ニーズの解決策)	<p>長期的な保護体制及び明確なビジョンは、文化財を指定・未指定やその種別によって、個別的に保存するのではなく、地域性や地域文化の連続性の中で捉え、「関連文化財群」として、活用も視野に入れなくてはならない。</p> <p>その根幹をなす「歴史文化基本構想」は、文化庁が推進する施策の基本ともなり、「富里市歴史文化基本構想」を策定することによって、市内に所在する全ての文化財について、「関連文化財群」としての保護の方向性を定める。</p>						
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用 ( )						
	事業手法選択の理由							
	協働の取組		協働の取組内容					

指標	単位	目標値			指標として設定する理由
		H30年度	R元年度	R2年度	
富里市歴史文化基本構想の策定		調査	調査骨子	策定	策定することを目的としているため
後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
市指定文化財数	件	24	27	「富里市歴史文化基本構想」の策定には、全ての文化財が対象となり、その中から市指定となりうる文化財が見いだせるため。	
総合戦略における指標等	単位	基準値 (年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
		( )			
		( )			
		( )			

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
文化財事業	教育委員会	生涯学習課	文化資源活用室

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	富里市歴史文化基本構想の策定	—	—	調査骨子	策定	策定	
		—	—				
		—	—				

評価	平成30年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	歴史文化基本構想の策定に必要な古文書や石造文化財調査を通じて、既知の文化財の所在確認の外、新規に発見された文化財もあったため。
		実績値を踏まえた今後の方針	追加等更に発展させる
		今後の方針の理由及び今後の予定	各種文化財のデータをデジタル化することにより、現状の把握や管理状況を集約でき、活用の促進が図れる。今後は、デジタル化したデータをGIS(地理情報システム)とリンクさせることにより、一元化及び視覚化を目指す予定。
	令和元年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	歴史文化基本構想の策定に必要な古文書や石造文化財調査を通じて、既知の文化財の所在確認の外、新規に発見された文化財もあったため。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	令和2年度の制度変更に伴い、文化財保存活用地域計画策定に向けて取り組んでいく。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

## 第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	
				【継続】の場合の区分	
		継続			
部等名		課等名		班等名	
教育委員会		生涯学習課		文化資源活用室	

事業(予算)名	旧岩崎家末廣別邸保存活用事業							
総合計画体系	施策の大綱		第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさや愛を育むまち					
	施策		施策1 地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興					
	施策の展開		(5) 文化財の保護・活用					
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	1
関連計画・根拠法令等	文化財保護法、千葉県文化財保護条例、富里市文化財の保護に関する条例、消防法、都市計画法、都市公園法、建築基準法、都市公園条例、千葉県環境保全条例など							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	H25				未定			

事業の概要	現状 (課題・ニーズ)	施設の公園化に向け、庭園部分については平成29年度に実施設計を完了。国登録有形文化財建造物3棟及び附属建物(管理棟)については基本設計まで完了している状況である。しかし、耐震設計に関わる調査等が未了であり、複数の大学の協力を得て必要な調査を継続中である。また年々、一般公開を望む声が大きくなっていることから、対応策を考慮する必要性が生じ						
	対象 (誰・何を)	旧岩崎家末廣別邸(敷地含む)と市民						
	事業内容 (課題・ニーズの解決策)	本市の歴史資源として活用を図るために旧岩崎家末廣別邸の公園化を進めているもので、今後、工事に関わる大規模な予算化が最重要課題である。国、県の交付金などを精査し、あらゆる可能性を考慮して整備費用を捻出する必要がある。また、一般公開を望む声に対しては、現状、市民のみを対象としている特別公開の枠(市外、県外対象)を拡大し、対応を図ることが効果的と考えている。						
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用 ( )						
	事業手法 選択の理由	都市公園として整備することから、公園化までは国交付金などを活用した直営事業で行なうが、公園化後は指定管理者制度の導入など、利用者の満足度を向上する事業手法の導入が望まれる						
	協働の取組	有	協働の取組内容	別邸管理支援ボランティアによる建物及び庭園の日常管理				

指標	指標	単位	目標値			指標として設定する理由
			H30年度	R元年度	R2年度	
	整備進捗率(事業費ベース)	%	30	88	90	一般公開までの進捗率であるため。
	後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
	総合戦略における指標等	単位	基準値 (年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
	整備進捗率(事業費ベース)	%	13 (H27)	88	KPI	一般公開までの進捗率であるため。
			( )			
		( )				

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
旧岩崎家末廣別邸保存活用事業	教育委員会	生涯学習課	文化資源活用室

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度		
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
第四次実施計画	整備進捗率(事業費ベース)	%	—	—	88	22	90	

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	事業費ベースの実績値としては目標値を下回ったが、畳の入替や敷地内の景観維持等、一定の事業効果は得られたものと判断する。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	今後は、実施設計に基づく整備の実施が必須であり、状況変化に対応しつつも、着実に事業の推進を図る必要があるため。なお、全体計画は見直しを予定。
	令和元年度	事業効果	効果があった
		判断理由	事業費ベースの実績値としては目標値を下回ったが、畳の入替や敷地内の景観維持等、一定の事業効果は得られたものと判断する。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	今後は、実施設計に基づく整備の実施が必須であり、状況変化に対応しつつも、着実に事業の推進を図る必要があるため。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	



# 第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	○	事業コード	
				【継続】の場合の区分	拡大
部等名		課等名		班等名	
教育委員会		生涯学習課		文化資源活用室	

事業(予算)名	郷土資料館整備事業							
総合計画体系	施策の大綱		第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち					
	施策		施策1 地域文化を継承し、市民の仕事や趣味、生活に役立つ生涯学習の振興					
	施策の展開		(5) 文化財の保護・活用					
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	1
関連計画・根拠法令等	文化財保護法							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	H30	まち・ひと・しごと創生総合戦略、地域文化の継承の主な事業としているため。			H31	整備が完了し、運営事業に移行するため。		

事業の概要	現状(課題・ニーズ)	市立図書館開館以前、旧庁舎を活用した仮設資料館設置されており、数多くの児童生徒が郷土の歴史を学ぶ機会を得ていた。現在、郷土資料を展示しているのは、日吉台小学校余裕教室となっており、施設的、地理的制約があり、文化財の保護・活用の面から考えても良好とはいえず、文化財保護行政としても町時代よりも後退した状態となっている。						
	対象(誰・何を)	教育委員会が保管する文化財(指定・未指定の区別なし)、市民等の見学者。						
	事業内容(課題・ニーズの解決策)	平成25年度に(財)藤崎牧土史料館の閉館に伴って寄贈された県有形文化財、これまで日吉台小学校に展示していた郷土資料を一元的に管理し、より多くの市民などが本市の歴史に触れる場所を提供するため、旧保健センターを利用して歴史資料館を整備する。						
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input checked="" type="checkbox"/> その他の民間活用 ( )						
	事業手法選択の理由	資料の移設などについて一部委託を考えるが、資料館としての設えについては職員による展示を行い、予算削減措置を講ずるため。						
	協働の取組	無	協働の取組内容					

指標	単位	目標値			指標として設定する理由
		30年度	31年度	32年度	
資料館(相当)施設の設置		設置準備	設置		運営までの目標値であるため。
後期基本計画における指標	単位	実績値 26年度	目標値 32年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
総合戦略における指標等	単位	基準値 (年度)	目標値 31年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
資料館(相当)施設の設置		未設置 (H28)	設置	指標	運営までの目標値であるため。
文化財を活用した学習支援回数		5回 (H26)	25回(累計)	KPI	資料館設置による効果検証となるため。
		( )			

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
郷土資料館整備事業	教育委員会	生涯学習課	文化資源活用室

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	資料館(相当)施設の設置	設置準備	設置準備	設置	見直し		

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	日吉台小学校等からの既存展示資料の搬入は実施できなかったが、国立歴史民俗博物館に寄託していた藤崎牧士史料の引取り保管、また、刀剣類の所有者変更を実施したことから、実施年度以前よりも改善したと判断したため。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	目標通り、旧保健センターを利用して歴史資料館を整備する。
	令和元年度	事業効果	効果があった
		判断理由	旧保健センターを郷土資料館として整備を進めて展示ケースの仕様、レイアウト等を定めたが、施設のバリアフリー対応や、より多くの方の来訪などの観点から検討を重ね、市立図書館2階を郷土資料の展示会場として整備する事業への見直すこととした。よって、展示ケースの仕様等、見直した後も活用が図れることから、一定の成果はあったものとする。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業内容の見直し(改善)
		今後の方針の理由及び今後の予定	貴重な歴史資源の一部を市民に公開することを優先し、市立図書館2階を活用した展示を早期に実施する。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	



事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
保健体育総務事業	教育委員会	生涯学習課	スポーツ振興室

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
スポーツ出前講座	回	5	2	5		5	
スポーツ推進委員協議会研修会	回	8	5	8	6	8	

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	各スポーツ推進委員が積極的に各種研修会等に参加し、知識や技能向上のスキルアップに努めた。市内在住・在勤者で構成される団体を対象とした「スポーツ出前講座」の要請は2回あり、市民を対象にした「ニュースポーツ体験会」は7月・9月・12月・3月に実施した。ニュースポーツの体験会には合計で31名の参加があった。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	年度途中にスポーツ推進委員が1名増え14名となったが、定員まであと1名必要である。また、今後は推進委員の高年齢化も進むことから、若年層の新たな委員の確保が必要である。「スポーツ出前講座」や「ニュースポーツ体験会」の開催にあたっては、市民がスポーツで体を動かすことが出来る機会の場を増やすため、積極的に広報・PR活動を行う必要がある。
	令和元年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	スポーツ推進委員対象の研修会への参加人数は昨年度より増加した。市内在住・在勤者で構成される団体を対象とした「スポーツ出前講座」の要請は無く、年4回予定されている市民を対象にした「ニュースポーツ体験会」は、7月・9月・12月に実施したが16名で減少傾向にある。(3月中止)
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	定員まであと1名であるスポーツ推進委員の募集を行いながら、各推進委員の知識・スキルアップにつながる研修会への積極的な参加を促していく。また、要請がなかった「スポーツ出前講座」に関しては、広報・PR活動に今後も継続的に行っていくとともに周知の内容や周知方法の見直しを図りたい。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	



事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
体育運営事業	教育委員会	生涯学習課	スポーツ振興室

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
第四次実施計画	水泳教室・水泳大会	回	6	6	6	5	6
	スポーツ健康フェスタ	種目	8	6	8		8

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	目標値に達しなかったが、一定の効果があった。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業内容の見直し(改善)
		今後の方針の理由及び今後の予定	誰もが気軽に参加できる場として毎年開催しているが、参加者が限定され、新たにスポーツをしようとする人がやってみたい、参加したいと思うようなスポーツや競技内容を考える必要がある。
	令和元年度	事業効果	効果があった
		判断理由	水泳大会・スポーツ健康フェスタともに台風のため中止とはなかったが、申し込み時点での参加者の予定人数は維持できている。目標値には達しなかったがある程度の効果はあった。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業内容の見直し(改善)
		今後の方針の理由及び今後の予定	スポーツ健康フェスタについては誰もが気軽に参加できることを目標に、幅広い世代の方が参加できる種目の選定をすることで、市民相互の協調と親睦が図れる場を提供していきたい。また、水泳教室については引き続き安全性を確保しながら、小学生の水泳技術の育成を行う。水泳大会については申し込み人数の減少がみられることから開催の必要性を再度検討していく。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	



事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
スイカロードレース大会事業	教育委員会	生涯学習課	スポーツ振興室

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
申込者数	人	13,000	12,590	10,000	10,559	10,000	
参加者の満足度	%	80	61	80	62	80	

評価	平成30年度	事業効果	効果があった
		判断理由	申込者数に関して、概ね目標値に近い実績を達成することができたものの、参加者の満足度については目標とする値に大きく届かなかった。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業内容の見直し(改善)
		今後の方針の理由及び今後の予定	申込者数については設定している目標値に近い実績を概ね達成することができたものの、参加者の満足度の点で目標に大きく届かなかった。インターネット上の口コミでは、選手輸送バスの待ち時間や、駐車場から会場までの距離などに対し満足がいかない指摘が例年多くみられ、天候等によっても評価が上下する点でもあるが、より良い大会としていくため改善へ向けた情報収集を継続して行っていく必要があると認識している。また、選手の輸送にも大きく関わるが、大会の規模(定員)については、安全な大会運営の関係上、規模の縮小も含めた見直しを図る必要がある。
	令和元年度	事業効果	効果があった
		判断理由	申込者数に関して、目標値を超える実績を達成することができたものの、参加者の満足度については目標とする値に大きく届かなかった。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業内容の見直し(改善)
		今後の方針の理由及び今後の予定	申込者数については設定している目標値を超える実績を達成することができたものの、参加者の満足度の点で目標に大きく届かなかった。前回大会の反省を踏まえ、より安全な大会運営を目指し大会規模(定員)を縮小して開催したものの、依然として、選手輸送バスの待ち時間や駐車場から会場までの距離などに対し満足がいかない指摘は数多くあった。天候等によっても評価が上下する点でもあるが、より良い大会としていくため改善へ向けた情報収集を継続して行っていく必要があると認識している。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	



第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード
-------	----	------	---	-------

【継続】の場合の区分 拡大

部等名	課等名	班等名
教育委員会	生涯学習課	スポーツ振興室

事業(予算)名	社会体育館管理運営事業
---------	-------------

総合計画体系	施策の大綱	第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち						
	施策	施策2 市民の健康と活力を支える生涯スポーツの振興						
	施策の展開	(2) スポーツ施設の充実						
予算科目	会計	一般	款	9	項	6	目	2
関連計画・根拠法令等	地方自治法244条の2第1項、富里市公共施設等総合管理計画							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	S59	富里社会体育館完成						

事業の概要	現状 (課題・ニーズ)	市民の社会体育の中核的な施設として社会体育館の役割が重要となっているが、開館から35年となり老築化の影響が顕著に表れ始めていることから、利用者の安全を確保するためには、大規模改修計画を作成し改修工事を計画的に進める必要がある。						
	対象 (誰・何を)	施設利用者、屋内体育施設(富里社会体育館)						
	事業内容 (課題・ニーズの解決策)	利用者の安全を確保し、良好な状態で貸し出すことで、明るく豊かな市民生活の向上を目指すことを目的として今後の改修計画を策定し、適切な取り組みを推進していく必要がある。						
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用 ( )						
	事業手法 選択の理由	計画策定のためには、専門的な調査が必要となるため専門業者への委託を行う						
	協働の取組	無	協働の取組内容					

指標	単位	目標値			指標として設定する理由
		H30年度	R元年度	R2年度	
社会体育館利用団体数	団体	1,800	1,800	1,800	社会体育の拠点としての利用活用度の目安となるため
社会体育館利用者数	人	50,000	50,000	50,000	社会体育の拠点としての利用活用度の目安となるため
後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
総合戦略における指標等	単位	基準値 (年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
		( )			
		( )			
		( )			

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
社会体育館管理運営事業	教育委員会	生涯学習課	スポーツ振興室

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
社会体育館利用団体数	団体	1,800	1,797	1,800	1,899	1,800	
社会体育館利用者数	人	50,000	57,955	50,000	51,623	50,000	

評価	平成30年度	事業効果	非常に効果的であった
		判断理由	目標値を上回っている。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	施設の老朽化により補修箇所が増えている。 利用者の安全確保及び利用団体が快適に利用できるよう、引き続き施設の維持管理に努める。
	令和元年度	事業効果	非常に効果的であった
		判断理由	目標値を上回っている。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	施設の老朽化により補修箇所が増えている。 利用者の安全確保及び利用団体が快適に利用できるよう、引き続き施設の維持管理に努める。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

# 第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	
-------	----	------	---	-------	--

【継続】の場合の区分 継続

部等名	課等名	班等名
教育委員会	生涯学習課	スポーツ振興室

事業(予算)名	運動場管理事業
---------	---------

総合計画体系	施策の大綱	第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち						
	施策	施策2 市民の健康と活力を支える生涯スポーツの振興						
	施策の展開	(2) スポーツ施設の充実						
予算科目	会計	一般	款	9	項	6	目	2
関連計画・根拠法令等	地方自治法第244条の2第1項、富里市公共施設等総合管理計画							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	S53	高野運動広場完成 ※富里市営運動場はS56に完成			-			

事業の概要	現状(課題・ニーズ)	市民の社会体育の中核的な施設として富里市営運動場及び高野運動広場の役割が重要となっているが、各施設ともに老朽化が進んでいることから、安全で良好な状態で貸し出すため、高野運動広場及び市営運動場の改修を検討する必要がある。						
	対象(誰・何を)	施設利用者、屋外体育施設(富里市営運動場、高野運動広場)						
	事業内容(課題・ニーズの解決策)	利用者の安全を確保し、良好な状態で貸し出すことで、明るく豊かな市民生活の向上を目指すことを目的として今後の改修計画を策定し、適切な取り組みを推進していく必要がある。						
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用 ( )						
	事業手法選択の理由	計画策定にあたっては、専門的な調査等が必要となるため専門業者への委託を行う						
	協働の取組	無	協働の取組内容					

指標	単位	目標値			指標として設定する理由
		H30年度	R元年度	R2年度	
市営野球場利用団体数	団体	90	90	90	社会体育の拠点としての利活用度の目安となるため
市営テニスコート利用団体数	団体	500	500	500	社会体育の拠点としての利活用度の目安となるため
高野運動広場利用団体数	団体	170	170	170	社会体育の拠点としての利活用度の目安となるため
後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
総合戦略における指標等	単位	基準値 (年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
		( )			
		( )			
		( )			

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
運動場管理事業	教育委員会	生涯学習課	スポーツ振興室

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
市営野球場利用団体数	団体	90	114	90	135	90	
市営テニスコート利用団体数	団体	500	746	500	740	500	
高野運動広場利用団体数	団体	170	217	170	286	170	

評価	平成30年度	事業効果	非常に効果的であった
		判断理由	目標値を上回っている。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	施設の老朽化により補修箇所が増えている。 利用者の安全確保及び利用団体が快適に利用できるよう、引き続き施設の維持管理に努める。
	令和元年度	事業効果	非常に効果的であった
		判断理由	目標値を上回っている。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	施設の老朽化により補修箇所が増えている。 利用者の安全確保及び利用団体が快適に利用できるよう、引き続き施設の維持管理に努める。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

## 第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	
-------	----	------	---	-------	--

➔ 【継続】の場合の区分 継続

部等名	課等名	班等名
教育委員会	生涯学習課	社会教育班

事業(予算)名	放課後子ども教室推進事業
---------	--------------

総合計画体系	施策の大綱	第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさや愛を育むまち						
	施策	施策3 次代を担う子どもを育む学校教育・幼児教育の推進						
	施策の展開	(2) 子どもを見守る体制づくり						
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	1
関連計画・根拠法令等	社会教育法第5条(最終改正平成29年度)「次世代の学校・地域」創生プラン(平成28年1月25日制定) 富里市教育振興計画 とみさと教育プラン							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	20年度	学校・家庭・地域のみんなで子どもを育てる環境づくりの推進						

事業の概要	現状(課題・ニーズ)	地域の人間関係の希薄化や生活様式の多様化などの様々な要因から、子ども達を見守り、育てる環境の低下が懸念される。そのため、地域の方による学校の教育活動の支援によって、課題の緩和・解消や学校や地域の教育環境の魅力を図っていくことが必要とされている。地域の未来を担う子ども達を育成するとともに、地域創生の実現を目指すものである。						
	対象(誰・何を)	市内の児童						
	事業内容(課題・ニーズの解決策)	小学校の余裕教室を活用し、子ども達に勉強やスポーツ・文化活動、地域の方々との交流活動等の取組を実施することにより、子ども達が地域社会の中で、安心・安全に心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進している。本事業は地域や学校、学童クラブとの連携が不可欠であり、今後も協力を得ながら実施していく必要がある。						
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用 ( )						
	事業手法選択の理由	小学校の空き教室等を有効活用するとともに、広く地元の方々の参画を得て子どもの居場所づくりを図る。						
	協働の取組	無	協働の取組内容					

	指標	単位	目標値			指標として設定する理由
			H30年度	R元年度	R2年度	
	放課後子ども教室開設数	教室	3	3	3	30年度より市内小学校3校で実施し、今後も継続する。また、引き続き学童クラブと放課後子ども教室の一体型での実施をする。
	とみさとザ・ワールド・キッズ開設数	教室	4	4	4	市内各小学校に「放課後子ども教室」・「とみさとザ・ワールド・キッズ」のいずれかの教室を開設する。
指標	後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
	総合戦略における指標等	単位	基準値 (年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
			( )			
			( )			
			( )			

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
放課後子ども教室推進事業	教育委員会	生涯学習課	社会教育班

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
放課後子ども教室開設数	教室	3	3	3	3	3	
とみさとザ・ワールド・キッズ開設数	教室	4	4	4	2	4	

評価	平成30年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	放課後子ども教室は、3校で運営委員会を設け実施した。 とみさとザ・ワールド・キッズについても4小学校区(富小、富里南小合同)にて活動を行うことができた。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	次世代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全、安心に過ごし、多様な体験、活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後子ども教室の計画的な整備等を進める。
	令和元年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	放課後子ども教室は、3校で運営委員会を設け実施した。 とみさとザ・ワールド・キッズについても2小学校区にて活動を行うことができた。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	次世代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全、安心に過ごし、多様な体験、活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後子ども教室の計画的な整備等を進める。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	

## 第四次実施計画事業シート

新規・継続	継続	主要事業	×	事業コード	
-------	----	------	---	-------	--

【継続】の場合の区分	継続
------------	----

部等名 教育委員会	課等名 生涯学習課	班等名 社会教育班
--------------	--------------	--------------

事業(予算)名	社会教育総務事業							
総合計画体系	施策の大綱		第2章 教えあい、みんなで学ぶ、心の豊かさと愛を育むまち					
	施策		施策4 青少年の健全な育成					
	施策の展開		(3) 青少年の体験活動の推進					
予算科目	会計	一般	款	9	項	5	目	1
関連計画・根拠法令等	社会教育法 社会教育基本法 とみさと教育プラン							
事業期間	開始年度	開始する理由			終了予定年度	終了する理由		
	38年度							

事業の概要	現状 (課題・ニーズ)	少子化や核家族化といった青少年を取り巻く環境が変化してきたことに伴い、これまでの家庭での教育に加え青少年同士や地域住民との交流から学んできた模範意識やコミュニケーション能力を身に着ける機会が減少しており、このことが青少年の社会的自立の遅れや非行など様々な問題を生じさせている。						
	対象 (誰・何を)	市民						
	事業内容 (課題・ニーズの解決策)	青少年の健全育成は、学校、家庭、地域が連携し、青少年と大人が率直に語り合える機会を充実させるとともに、良好な社会環境を整える事が重要である。						
	事業手法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理者制度 <input type="checkbox"/> PFI <input type="checkbox"/> その他の民間活用 ( )						
	事業手法 選択の理由	青少年相談員や子ども会の活動はそれぞれの団体が行っている。市は青少年相談員連絡協議会や子ども会育成会連絡協議会の活動へ補助金の交付等を行い支援している。						
	協働の取組	無	協働の取組内容					

指標	単位	目標値			指標として設定する理由
		H30年度	R元年度	R2年度	
青少年相談員数	人	46	43	43	各小学校区ごとに相談員を選出しているため
単位子ども会団体数	団	7	8	8	子供会の状況把握をするため
後期基本計画における指標	単位	実績値 H26年度	目標値 R2年度	指標(後期基本計画)の達成に寄与する理由	
総合戦略における指標等	単位	基準値 (年度)	目標値 R元年度	区分	指標又は重要業績評価指標(KPI)の達成に寄与する理由
		( )			
		( )			
		( )			

事業(予算)名	部等名	課等名	班等名
社会教育総務事業	教育委員会	生涯学習課	社会教育班

指標	単位	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
青少年相談員数	人	46	46	43	43	43	
単位子ども会団体数	団	7	7	8	5	8	

評価	平成30年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	目標値は上回らなかったが、概ね目標値を達成している。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	青少年の健全育成に良好な環境に努める。
	令和元年度	事業効果	相当程度効果があった
		判断理由	目標値は上回らなかったが、概ね目標値を達成している。
		実績値を踏まえた今後の方針	事業の継続
		今後の方針の理由及び今後の予定	青少年の健全育成に良好な環境に努める。
	令和2年度	事業効果	
		判断理由	
		実績値を踏まえた今後の方針	
		今後の方針の理由及び今後の予定	